



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	養護教諭の専門職的自律性とワーク・エンゲイジメント(全文の要約)
Author(s)	籠谷, 恵
Citation	
Issue Date	2016-03-15
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/145695">http://hdl.handle.net/2309/145695</a>
Publisher	
Rights	

## 養護教諭の専門職的自律性とワーク・エンゲイジメント

籠谷 恵

養護教諭の多くは一人配置であり、新任でも様々な局面で専門職として自律的に判断し、行動することが要求される。よって、養護教諭独自の専門職的自律性（Professional Autonomy）の概念や特性を明らかにし、その向上を目指した養成教育や現職研修につなげていくことが必要である。

専門職的自律性を高めることは、養護教諭のメンタルヘルスにおいても重要である。専門職的自律性、すなわち仕事におけるコントロールや裁量が高いとワーク・エンゲイジメントも高いことが知られ、教師を対象にした研究でも教師の自律性とワーク・エンゲイジメントの関連が明らかにされている。よって、養護教諭においてもワーク・エンゲイジメントが向上することで、学校保健の推進者として学校教育により良く貢献することが期待できる。

本研究の目的は、第 1 に養護教諭の専門職的自律性尺度を開発し、信頼性と妥当性を検討すること、第 2 に養護教諭の専門職的自律性と仕事に関連したポジティブな心理的状态であるワーク・エンゲイジメントとの関連を明らかにすることである。

第 1 章では、養護教諭の専門職的自律性における問題を検討するため、養護教諭の歴史的文脈に即して専門職的自律性の位置づけと問題を明らかにし、専門職的自律性に関連した理論や先行研究を整理したうえで、養護教諭の専門職的自律性の研究に向けた今後の課題を提示した。

養護教諭は、歴史的に専門職的自律性を発揮することが認められていなかった時代もあったが、近年は養護教諭の専門性への期待が高まり、法的にも学校現場においても自律的な判断と職務遂行が求められるようになったことを明らかにした。次に、養護教諭の専門職的自律性の研究に向け、関連する理論を概観し、理論的パースペクティブとして、自己決定理論（SDT）を取り上げて説明した。SDT を参考にすると、養護教諭の専門職的自律性の中核概念は自己決定であり、有能さや関係性も相互に関連する概念であること、社会的価値観等を自己のものとして内在化していくことにより、専門職的自律性が高まること、さらに専門職的自律性が高まることにより、内発的動機づけが高まり、心理的なウェルビーイングにつながる可能性があると考えられた。

専門職的自律性の先行研究として、看護師と教師の専門職的自律性の尺度開発、関連要因に関する研究を中心に整理した。近接領域の看護師や教師を対象にした先行研究では、尺度開発、関連要因として職務満足、バーンアウトやワーク・エンゲイジメント等が報告されていた。看護師や教師は養護教諭と専門性等が異なるため、そのままの尺度を使用することはできないが、看護師においては養護教諭と専門性や職務上重なる部分も多いため、

養護教諭の専門職的自律性尺度の構成概念として参考になると考えた。

続く第 2 章では、養護教諭の専門職的自律性尺度の開発に向け、養護教諭の専門職的自律性の概念枠組み（試案）を明らかにすることを目的とした。そのため、看護師の専門職的自律性に関する文献から概念枠組みを整理し、それを参考に、養護学の関連論文、2013 年 8 月に養護教諭 8 名にインタビューを行い、養護教諭の専門職的自律性の概念枠組み（試案）を作成した。

結果、養護教諭の専門職的自律性の上位の構成概念を【裁量】、【協働】、【職業倫理】、【成熟性】、【変革】の 5 つにまとめることができた。本研究結果の信頼性を研究プロセスの明示により確保し、さらに妥当性を養護教諭へのインタビュー、「自律性」の理論的背景となる SDT との関連を考察し、内的妥当性と外的妥当性を確認することができた。

第 3 章では、第 2 章で作成した概念枠組みをもとに多面的な性質をふまえて養護教諭の専門職的自律性尺度を作成し、信頼性と妥当性を検討することを目的とし、養護教諭の専門職的自律性を 5 つの領域（裁量、協働、変革、職業的精神、成熟性）から構成される概念として尺度開発を試みた。

下位概念に対応した尺度項目を作成するため、2013 年 8 月に養護教諭 8 名に個別のインタビュー調査を行った。内容的妥当性を確認するため、2013 年 11～12 月に養護教諭 6 名、養護学を専門とする研究者 2 名に予備的に質問紙調査を行い、尺度項目の表現や項目数等を修正した。本調査（1 回目）は、2014 年 1～2 月に関東地方の公立小・中・高等学校に勤務する養護教諭 1,456 校を対象に、郵送法による質問紙調査を行った。調査内容は、養護教諭の専門職的自律性尺度 88 項目（5 件法）、職務満足、基本属性等であった。本調査（2 回目）は、本調査（第 1 回目）と同様の調査方法により、2014 年 12 月に東京都の公立小・中学校に勤務する養護教諭 1,495 名を対象に行った。第 1 回目調査の養護教諭の専門職的自律性尺度がやや高得点に偏っていたため、養護教諭 1 名、保健行動学を専門とする研究者 1 名と検討し、尺度項目のワーディングを変更して使用した。主なデータの処理および統計的解析は SPSS for Windows ver. 22.0、構造方程式モデリングは Mplus ver. 7.3 を利用し、データを探索的因子分析と確認的因子分析により分析した。養護教諭の専門職的自律性尺度の基準関連妥当性を確認するため、養護教諭の専門職的自律性の裁量等の 5 領域を独立変数、職務満足（下位尺度）を従属変数としてパスモデルを作成し、適合度を検討した。

結果、養護教諭の専門職的自律性尺度は、裁量領域（19 項目）は 5 因子、協働領域（12 項目）は 2 因子、変革領域（11 項目）は 3 因子、職業的精神領域（18 項目）は 5 因子、成熟性領域（8 項目）は 3 因子の合計 68 項目から構成された。5 領域の信頼性は、クロンバックの  $\alpha$  係数を確認し、概ね良好であった。5 領域の妥当性は、構成概念妥当性と職務満足との関係により基準関連妥当性を概ね確認することができた。

第4章では、第3章で開発した養護教諭の専門職的自律性尺度を使用し、ワーク・エンゲイジメントとの関連を検討した

2014年12月に東京都の公立小・中学校に勤務する養護教諭1,495名を対象に、自記式の調査票を郵送により送付、回収した。基本属性（年代、経験年数、学歴、現在の勤務校、児童生徒数）でコントロールしたうえで、養護教諭の専門職的自律性の5領域（裁量、協働、変革、職業的精神、成熟性）を個別に投入し、一般化線形モデルにより分析した。主なデータの処理および統計的解析はSPSS for Windows ver. 22.0、構造方程式モデリングはMplus ver. 7.3を用いた。

すべての領域がワーク・エンゲイジメントと有意な関連があった。さらに具体的に検討するため、5領域の下位尺度においても、成熟性領域の1つの下位尺度を除き、ワーク・エンゲイジメントと有意な関連がみられたことから、養護教諭の専門職的自律性はワーク・エンゲイジメントの向上にとり重要な意味をもつことが明らかになった。

本研究はいくつかの限界を有する。養護教諭の専門職的自律性尺度に関して、概ね信頼性と妥当性が確認され、既存の尺度のなかでは養護教諭の専門職的自律性を測る最も適した尺度であると考えられる。しかしながら、養護教諭の専門職的自律性尺度を用いた2回の本調査の対象集団が異なること、2回目の本調査ではワーディングを修正した改訂版の尺度を用いたことから、尺度の信頼性と妥当性の解釈は慎重にすべきである。今後は、2回の本調査をふまえてワーディングの適切さを再度検討し、より養護教諭の実状に即した尺度項目になるよう検討することが必要である。また、養護教諭の専門職的自律性を独立した5領域から構成される概念として、5つの尺度を作成したが、5つの尺度を統合した二次因子相関モデルでは2回の本調査ともに因子間相関が0.5以上と高く、因子の弁別性に課題があると考えられる。今後の調査において、養護教諭の専門職的自律性尺度は多元的モデルなのか、1因子モデルなのかを検討することが必要である。

本研究の限界をふまえたうえで、意義を2点挙げる。1点目は養護教諭にとり重要な問題であった専門職的自律性に着目し、その構成概念を明確にしたうえで尺度開発を試み、測定を可能としたことである。現代的健康課題への対応のため、養護教諭は専門職的自律性を発揮し、職務を遂行することが重要であると指摘されていたものの、実証的な研究は行われてこなかった。本研究では、2回の本調査を経て養護教諭の専門職的自律性尺度の開発を試み、概ね信頼性と妥当性を確認することができた。今後は、養護教諭の専門職的自律性の意識の向上に向け、養護教諭養成カリキュラムや現職研修に養護教諭の専門職的自律性の構成概念を組み込むとともに、その測定評価のため、本研究で開発した尺度が活用されることが期待される。

2点目は、養護教諭の専門職的自律性を高めることがワーク・エンゲイジメントの向上につながる可能性を明らかにしたことである。養護教諭の専門職的自律性の5領域やその下

位尺度を個別に投入した結果、全体的に有意な関連がみられ、養護教諭の専門職的自律性はワーク・エンゲイジメントの向上にとり重要な意味をもつことが明らかになった。仕事における自律性とワーク・エンゲイジメントの関連については、他領域の先行研究で明らかにされていたが、養護教諭に関する研究はなかった。これまでの養護教諭のメンタルヘルスに関する研究では、ストレスや抑うつ等のネガティブな側面に着目した研究が中心であったが、本研究はポジティブな心理的状态であるワーク・エンゲイジメントを取り上げ、養護教諭の専門職的自律性との関連を明らかにした点で意義がある。